

# 秩父 今宮神社 奉賛会だより

(令和二年正月号)

## 年頭のご挨拶

今宮神社 宮司 塩谷 崇之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は当神社に格別の御尊神と御篤志を賜りまして誠にありがとうございます。

「庚子」(かのえね)の年頭にあたり、中町奉賛会の皆様をはじめ、秩父地域のますますの隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

「子」といえば干支の順番を決める際に、牛の



背中に乗って移動し、最後に飛び降りて一番になったネズミの逸話が有名ですが、「子」という漢字にはもともと命の芽生えや増加という意味があります。日本神話の中では、ネズミは、日本を平定された大国主神を助けた神使で、子孫繁栄・五穀豊穡をもたらす動物とされます。

令和二年は「庚子(かのえね)」の年ですが、「金」に該たり、「水」の性質を持つ「子」とは互いが相乗効果で良い相性を生む「相生」の関係にあるとされます。

さて、昨年は、天皇陛下の御譲位により平成の御代が終わり、「令和」の御代がスタートいたしました。今宮神社におきましても、新社殿増築事業が順調に進み、昨年二月には竣功祭・遷座祭を斎行することができました。

また、これに続いて境内西側の古いフェンスを撤去し、雑木を整理して、瑞々しい玉垣を建設して境内整備を完了。今春にはこの御神域に、学問野上様として知られる菅原道真公をお祀りする「天満社」が完成する予定です。

今年もまた、新しき春の到来を喜ぶ「立春祭」、明治十一年「秩父大火」を思い起こし火伏の神々に祈りを捧げる「三社祭」、武甲山の龍神さまを里にお迎えして感謝を捧げる「龍神祭」、秩父神社の御田植祭にその龍神さまの御恵をお分けする「水分祭」…と春のお祭りが続きます。六月には、高祖役小角(役行者)をお祀りする「役尊神祭」(行者祭)、そして水無月晦の「夏越大祓」。秋には、当社の主祭神であるイザナギ、イザナミ、スサノヲの三柱の神々に感謝の誠を捧げる「例大祭」へと繋がります。

皆様方にもぜひお運びいただき、祈りを共有して頂くければ誠に幸甚に存じます。

## 【新社殿竣工のご報告】

一昨年より行っていました今宮神社新社殿造営(拝殿新築ならびに境内整備)の事業が、無事竣功・完了の運びとなりました。

新社殿の竣功にあたり、昨年二月二十三日に「本殿鎮座祭」を、翌二十四日には「竣功奉告祭」を斎行。その後、三月に入って、狛犬及び灯笼の設置、御寄付銘板の設置、仮社殿の解体・移設と参拝者用の休憩所設置など、一連の追加工事を行い、新たな御神域にて新たな御代を迎えることと相成りました。

先帝御即位三十年という節目にこのような事業に取り掛かることができ、「令和」の新しい御代を荘厳な社殿と清々しい御神域で迎えることができたことは、氏子・崇敬者の皆さまを始め、新社殿造営事業に御支援・御奉賛によりますことと、篤く御礼申し上げます。

新設の社殿は、切妻屋根銅板葺き妻入りの総木造。旧社殿の趣を取り入れ、外壁は総朱塗り仕上げ、殿内は木肌を活かした白木仕上げとなっております。既存の本殿に連なる九帖の幣殿と十八帖の内拝殿、さらに二十四帖の外拝殿からなり、内拝殿だけでも五十余名の昇殿参拝が可能となり、外拝殿を合わせるとゆうに百名以上にご参列いただけるようになりました。

今回の御造営は、飛鳥時代からの伝統技術を継承する「金剛組」出身の宮大工(株)内柳に設計・施工を依頼。同社代表取締役の内田一矢氏が設計監理を担当、弟の内田乙矢氏が棟梁となつて施工し、下回りを新井石材、エクステリア八木など、秩父の若手職人らが請負い、伝統的な様式美と多くの箇所繊細な技が窺い知れる社殿に仕上がっております。



一、総工費 約六千万円

(設計・施工、内装、調度品、境内整備等)

一、建物規模

建築面積 三十七坪、

延べ床面積 二十七坪

幣殿・九帖、 拝殿・十八帖、

濡縁・三帖、 外拝殿・二十四帖

間口 五・四メートル(三間)、

奥行 十六・四メートル(九間)

新たな御社殿は、銅板葺き檜造による大社造様の造りで、既存の本殿の前方に、九帖の幣殿、十八帖の内拝殿として約三十帖の外拝殿を建て、滞りなく祭礼行事を執り行うとともに、皆様に気持ちよくご参拝いただけるような構造となっております。

柱と壁面は、かつての今宮神社社殿と同様の格調高き朱色の塗装を施し、屋根は、皆様よりご奉納いただいた黄金色の銅板を葺いて、棟上は天高く聳える千木と社殿の屋根を御守りする





鯉木により装飾された威風堂々とした構えとなります。

なお、社殿造営事業にご奉納下さいました皆様のご芳名は拝殿の芳名板に刻ませていただきました。

本年度も引き続き境内整備に努めて参りますので、何とぞ皆さまのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【令和元年年度を振り返って】

- ◎平成三十一年一月一日 歳旦祭齋行
- ◎平成三十一年二月四日 立春祭齋行
- ◎平成三十一年二月二十三日 本殿鎮座祭
- ◎平成三十一年二月二十四日 社殿竣功奉告祭



二月二十三日 本殿遷座祭



二月二十四日 竣功奉告祭

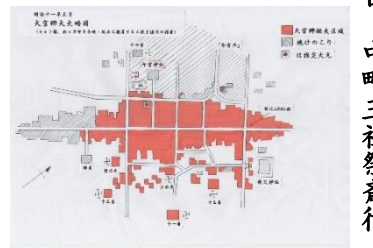
◎平成三十一年三月二十一日 中町三社祭齋行



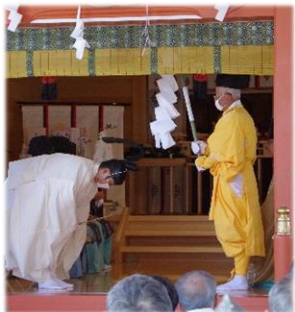
地元中町会・東町会及び秩父市消防団による火伏（火難除け祈願）のお祭りです。

明治11年（1878年）3月21日、中町を火元に発生した「秩父大火」は、秩父（当時は「大宮郷」と呼ばれていました）の市街地約4万坪447棟を焼け尽くしました。

二度とこのような災禍の起こらないよう、翌年3月、今宮神社境内摂社に火伏の靈験ある秋葉大神を祀り、以来139年もの長きに亘り、毎年、大火のあったこの日、地元町会や消防団を中心として、火伏の神様（秋葉大神・古峯大神・三峯大神）に防災を祈願するお祭りが齋行されます。



◎平成三十一年四月四日 龍神祭・水分祭



◎御代替わり 新元号『令和』  
◎令和元年六月九日 役尊神祭（行者祭） 齋行



行者祭奉納護摩

◎令和元年六月三十日

夏越大祓・茅の輪くぐり神事を齋行



夏越大祓の茅の輪

◎令和元年九月二十八日

今宮神社例大祭を齋行

◎令和元年十一月十四日 大嘗祭当日奉祝祭

◎令和元年十二月三十一日



年越大祓神事を齋行



【境内西側玉垣新設と天満社造営】



以前は雑木で覆われていた



境内西側の市道沿い

は、今宮児童館時代からの古い金属製のフェンス

と鬱蒼とした雑木に覆われておりましたが、この

たび、皆さまからのご寄付により、フェンスを撤去し、雑木を整理して、瑞々しい大理石の

玉垣を新設して境内を整備いたしました。

これに伴い、道路境界のケヤ

キの巨樹一本の伐採を余儀なく

されましたが、このケヤキの切

株に、学問の神・立身出世の神

として知られる菅原道真公（天

神様）のケヤキ彫りの御神像を

奉安し、約一坪の檜造りの社殿

にて道真公の御神霊をお祀りす

る「天満社」を造営する運びと

なりました。本年三月の竣功を

予定しております。



【今年度の行事予定】

- 令和二年一月一日 歳旦祭
  - 令和二年一月十二日 神道護摩供始祭
  - 令和二年二月四日 立春祭
  - 令和二年三月二十日 中町三社祭
  - 令和二年四月四日 龍神祭・水分祭
  - 令和二年六月七日 役尊神祭
  - 令和二年六月三十日 夏越大祓
  - 令和二年九月二十八日 例大祭
  - 令和二年十二月三十一日 年越大祓
- 各行事につきましては、随時ご案内申し上げますので、お気軽にご参加下さい。



今年も元旦から数行限定にて頒布中の『金龍御朱印帳』。好評を博しています。